令和2年度京都市役所環境マネジメントシステム(KYOMS)外部有識者会議 会議録

- 1 日 時：令和3年1月27日（水）午後2時～4時
- 2 場 所：職員会館かもがわ 第2多目的室
- 3 出席者：山田会長，杉本委員，花田委員
- 4 欠席者：小林委員
- 5 事務局：中村環境技術担当部長，日野環境管理課長，數田環境管理係長
- 6 議 題：(1) 令和2年度の取組について（報告）
(2) 課題及びその改善策について
 ア 内部環境監査（局等間監査）について
 イ KYOMS運用方法の見直しについて
(3) その他
 環境方針の改定について

<開 会>

<環境政策局環境企画部環境技術担当部長 挨拶>

<議題1 令和2年度の取組について（報告）>

事務局から資料1から資料3について説明

委 員 3点質問がある。

1点目はグリーン調達推進の消耗品は97.7%と固定目標値の90.0%よりも高い達成率である。この達成率が続いているようであれば、目標値を引き上げてもよいのではないかと考えるがいかがか。

2点目は令和2年度上半期取組実績で、缶・びん・ペットボトル等（資源物）の排出量の項目において西京区役所が大幅に減少となったが、何か良い取組内容等があれば教えていただきたい。

3点目は書面開催とした職員研修の資料はオンデマンドにして他の職員がいつでも確認できると良いと思うが、いかがか。

事務局 1点目のグリーン調達については、環境対応品がない場合や、環境対応品が環境対応品でない物より価格が高い場合があり、達成率を100%にするのは難しいと考えている。御指摘いただいたように高い達成率ではあるので目標値の引上げについては推移を再度確認したうえで検討したい。

2点目の西京区役所の個別の取組については確認できていない。突出して削減が進んだ要因の特定は難しいが、事務局から全所属にマイボトル・マイカップの使用の推進を依頼しており、各局から各所属への呼び掛けの中で、特に取組が徹底されたのではないかと考える。

3点目の職員研修資料については、職員向けホームページに資料を載せており、誰でも閲覧できるようにしている。

委員 西京区役所においては、もし、呼び掛け方等で良い取組があり、全体に共通する内容であるならば共有するべきだと思う。

委員 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が見られたが、そのような影響についてはいかがか。

事務局 コピー用紙においては、コロナ対策で業務が増加した行財政局や保健福祉局で使用量が増加した一方、文化市民局等ではイベントの中止等により使用量が減少している。また、ガソリンの使用においては区役所・支所等での外勤が減少し、全体的に減少となっている。

委員 コロナは増加要因と減少要因のどちらにもなると考える。また、選挙は増加要因として例年挙がっている。これらの影響が各項目の増減にどれくらい寄与しているか、その面での解析は今後にかけるので必要であると考え。

特に今年度はコロナ禍での在宅勤務等の影響がどれくらいあったのか分かると良い。

事務局 コロナや選挙等の影響が各項目の増減にどれくらい寄与しているか検証し、京都市役所における基礎的な数値がどれくらいなのかを把握することは意義があると思う。在宅勤務などの影響は今年度の結果で傾向が見えてくるのではないかと認識している。

委員 コロナもだが、例年目標達成できなかった要因として選挙や災害等の突発的な影響を挙げられるが、それ以上の突っ込んだ分析がなされていないように感じている。コロナや選挙の影響がどれくらいか、その影響がなければ目標が達成できていたか等もっと踏み込んだ分析が必要だと思う。

また、市役所本庁舎は大規模改修中とのことで実績把握のみであるが、この実績には移転に伴って発生する大量の廃棄物等の影響も含んでいる。他都市にも参考になる情報だと思うので、改修が終了した後、この期間の実績をまとめた情報が出されることを期待する。

委員 監査員育成の観点から、実際に監査を実施した内部環境監査委員間で各局区の実施状況の良かった点や悪かった点を情報共有すると良いと思うがいかがか。

事務局 監査終了後、内部環境委員会で各局の監査状況の報告を行うとともに各局・区を通じて取組実績の通知を行っている。

委員 実際に監査を行った人が、ざっくばらんに情報交換できる場があると良いと思う。

<議題2 課題及びその改善策について（ア 内部環境監査について）>

事務局から資料4について説明

委員 限られた時間内で監査を実施できており、良かった。互いに他の業務もあるため、スケジュールどおり監査を実施するのは重要である。また、チェックリストはチェックの抜け防止にもなり、しっかり活用されていた。工夫している点を最後に聴くなど良い点を探しているのが良かった。

目標未達成項目の要因については聴取りが物足りない印象であった。例えば増加要因が選挙の影響であった場合、選挙の影響を除けばどうだったかまで聴くなどできると良い。時間との兼ね合いもあるが、一つ、二つ突っ込んだ内容があると良い。

委員 それぞれの現場レベルで工夫して取り組んでいる印象であった。同行した醍醐支所は実績値においてもほとんどの項目で削減が進んでいた。所属長による日常研修や局等間監査を通して現場に取組が浸透していると感じた。取組実績の数字では表れない意識の面でも10年以上継続して取り組んできた効果が見えていると思う。

委員 目標未達成項目については選挙など突発的な影響を要因とし、監査員はそれ以上の追求はしていなかった。選挙でこれくらい増えた等、量的にもう一步踏み込んだ分析が必要だと思う。

監査では電子データの確認に手間取っている印象であった。パソコンの情報の整理・把握をしてできるだけスムーズにできる工夫があると良い。パソコンの情報の整理・把握は引継ぎにおいても必要であると思う。

監査全体としては、スムーズに行えており、他局に紹介できる取組もあり良かった。局等間監査は監査する側、される側共に勉強になり、良い仕組みである。

<議題2 課題及びその改善策について（イ KYOMS運用方法の見直しについて）>

事務局から資料5について説明

委員 事務局から取組内容を例示しているようだが、例示数が多いと逆に選びにくい。重点テーマとして取組を一つ、二つ示し、その取組をしっかりと行うといった形が良い。

委員 選択肢が多いと逆に選びにくくなるというのは心理学でも言われている。この例示の中には、実行する負担に対して効果が低いものも含まれている。そういったものは省いていくのが良いと思う。

事務局 幅広く例示することで職場の状況に対応した取組を選択できると考え、今までは例示内容を増やす方向であったが、コピー用紙の裏紙利用など職員に一定浸透し、当たり前になっている取組は削除する一方、いまだ浸透していない取組等を追加することにより、一步進んだ取組を行っていきたいと考えている。

委員 裏紙を使用するという事は、裏紙が発生しているということになる。コピー用紙消費量を抑える意味では、まず裏紙を無くしていくことが重要である。そのような発想の転換も必要だと思う。

委員 （上記の）委員が御指摘されたような内容を示すことで、マンネリ解消になると考える。既にその取組はできているとならずに、もう一步進んだ取組を促すことにつながる。

委員 重点テーマ例の「更なるプラスチックごみの削減」の「更なる取組」とはどのようなことを想定しているのか。

事務局 現在、必須項目として設定しているマイボトル・マイカップの推進のほか、啓発物品におけるプラスチック製品の使用禁止などを考えている。

委員 プラスチックの削減だけでなく、植物由来製品等の代替品の利用を増やすといった視点も必要だと考える。代替品の流れが出てきていると感じているので、京都市としてもその動きを支える取組ができれば良いと考える。

事務局 プラスチックを意識せず使っている部分はあると思うので代替品を探していくことも重要と考える。物品調達については効果的に行えるよう、取組の進め方の整理が必要である。啓発物品でのプラスチック使用禁止などの取組はごみ減量の担当課とも連携して検討を行っていききたい。

委員 エコバッグを配布する際にエコバッグ自体にプラスチックの包装がなされており、このプラスチック包装は不要ではないかといったことがあった。そのような観点で啓発物品のプラスチック使用を見直していければ良い。

委員 現在、全国的にレジ袋の削減が象徴的に行われているが、次の削減対象が出てくると良いと思っている。

委員 監査の同行において是正処置報告書を拝見したが、数値的な物や具体的な物がなかった。「いつまでに 何を どうするか」、「どのように改善していくか」を詳しく記載することで、重点テーマの取組にうまく活用できると良い。

<議題3 その他（環境方針の改定について）>

事務局から資料6について説明

委員 通常、CO2排出量は「実質ゼロ」の表現が多いので、「正味ゼロ」という表現を使われるのには何か理由があるのか。

事務局 「1.5℃を目指す京都アピール」において「正味ゼロ」という文言を使用しているため、それを使用するものである。

委員 再生可能エネルギーの調達とはどのように行う予定か。また、それは市民等へも再生可能エネルギーの使用を促していくことも予定しているか。

事務局 京都市地球温暖化対策条例の改正や、それを踏まえた京都市地球温暖化対策計画で事業者及び市民への啓発を行うとしている。本市においても率先し取り組むこととして電力調達に係る指針があり、それに従い導入を進めていく。

委員 現在、大規模改修中の市役所本庁舎では再生可能エネルギーの使用状況はどうか。

事務局 現在、分庁舎の新設が終了し、本庁舎、北庁舎の改修工事中である。できる限り再生可能エネルギーを使用する設計になっているが、100%ではないと思う。

委員 建物のエネルギー効率を上げていかないとネットゼロの達成は難しいので、これからの公共施設の建設では「できるだけ」ではなく、100%再生可能エネルギーを利用することが2050年CO2正味ゼロの達成のためには必要と考える。

委員 環境方針は文字数が多いと分かりづらくなる。可能な限り文字数を少なくする方が市民には分かりやすい。

委員 SDGs関係は文言に入れいいのか。また、再生可能という点については資源についても言えると思う。

事務局 骨子には記載していないが、SDGsについても記載する予定である。再生可能資源利用の観点は2Rやグリーン購入の辺りに組み込んでいく。

委員 現在、「サーキュラーエコノミー」という考え方があり、循環型社会への取組やエシカル消費とも関わってくるので、文言として入れることを提案する。

<閉 会>